

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 2 月 20 日 (2020.2.20)

【公開番号】特開 2019-40763 (P2019-40763A)

【公開日】平成 31 年 3 月 14 日 (2019.3.14)

【年通号数】公開・登録公報 2019-010

【出願番号】特願 2017-162494 (P2017-162494)

【国際特許分類】

H 0 1 R 43/02 (2006.01)

H 0 1 R 4/02 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 43/02 B

H 0 1 R 4/02 C

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 1 月 8 日 (2020.1.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

【図 1】端子付電線を示す斜視図である。

【図 2】接続前の電線及び端子を示す斜視図である。

【図 3】端子付電線の背面図である。

【図 4】超音波接合装置を示す概略斜視図である。

【図 5】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図 6】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図 7】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図 8】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図 9】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図 10】端子付電線の製造工程を示す説明図である。

【図 11】端子を電線に圧着した状態を示す説明図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 4】

この状態では、好ましくは、芯線接続部 2 3 の底部 2 3 a が相手側接続部 2 1 側に向けて下向き傾斜するように、振動抑制用接触部 5 0 が被覆圧着部 2 4 に接している。換言すれば、底部 2 3 a が水平姿勢でアンビル 3 2 の載置面 3 2 a に載置状に支持された状態において、振動抑制用接触部 5 0 の載置面 5 1 が、芯線接続部 2 3 の最下部の位置よりも上方に位置する関係となっている。これにより、補助支持部 3 8 が端子 2 0 を両側から押えて水平姿勢にすると共に、ホーン 4 2 によって露出芯線 1 4 a と底部 2 3 a とを下方に向けて押すと、被覆圧着部 2 4 が強い力で振動抑制用接触部 5 0 に押付けられるようになる。